

# 衛星通信と私

(財)日本ITU協会 企画部 石井篤子

突然の原稿依頼に「なんで私が？」の気持ち一杯。過去のものを読んでも、私はお話にならないほどの知識。決して卑下しているわけではなく、本当に知らないから情けない。

“衛星通信”って私の身近にあるのかな？私が知っている衛星は“気象衛星ひまわり”と“BS放送”、“カーナビ”、一時期話題になった“イリジウム”くらいかな。

以前、「静止衛星は動いているの？移動衛星は止まっているの？」「いらなくなった衛星は地球に落ちてこないの？」と幼児に聞かれて子供用に答えるのは難しいよ、とNHKの方から聞いたことがある。ほとんど同じレベルの私である。

また、テレビ画面はどうして空を飛んでくるのにバラバラにならないのか、電話はどうして声と声が電線の中でぶつからないのか、隣の人携帯電話の音がどうして私のものと混じらないのか…夜も眠れない(古い!)…

= = 繰り返すが、どうしてこんな私が原稿を書いているのか…

そんな私も国際電気通信連合 (ITU) 関係の仕事をして15年余になる。ITUは、通信技術の標準化、電波の国際的割り当て、途上国の電気通信開発支援、通信技術普及のための展示会やフォーラムの開催をしている国際連合の専門機関で、国際連合の中でも最も古い専門機関である。先に書いたような疑問もおそらくITUの中で標準化されているために、うまくいっているのである。だから、ITUの関係者に聞くととても親切に答えてくれるのであるが、狐につままれたような状態であるのは、私だけではないと思う。電話が発信して受信できるのも、外国のテレビが見られるのも、携帯電話で通じるのも、全てITU関係者の努力の賜物である。でも、仕組みは未だにわからない…

= = 余談になるが、国際連合の会費(のようなもの)は、払わなくても、ITUの会費は払っている大国もある。それだけ人間の生活に密着している権限を持っている組織ともいえる。

こんな文字を並べると、私自身も国際的に大活躍し、衛星通信にも深く関わっているように見えるが、この活動を行っているのはジュネーブにあるITUで、日本ITU協会は、この活動を日本国内にも普及啓発することを目的として設立された総務省(当時は郵政省)の外郭団体である。従ってITUのローカルブランチではない。

= = もっと言うと、日本語だけで生きている。

その中でも、私は日本の皆様いろいろな角度からITUを発信すべく様々な企画運営をしている。例えば「世界電気通信日記念式典」「日本ITU協会賞」「ITUクラブ」「国際会議およびビジネス交渉実践セミナー」「ITUビジネスセミナー」「ITUワールドテレコム」「WSIS (世界情報社会サミット)」など。また他団体からセミナーや記念式典、展示会の運営に関する応援を依頼されたり、ITUの主要な行事に日本企業のトップの方々をご案内することもある。



2003年12月 WSIS 第1フェーズ(ジュネーブ)にて(左より、内海 ITU 事務総局長夫人、海老沢 NHK 会長、筆者、内海 ITU 事務総局長、平松日本 ITU 協会企画部長)

「日本ITU協会賞」は、歴史も古



ITUクラブでのスナップ

く(今年は 32 回目)主に情報通信の標準化に貢献のあった方を表彰しているものである。特別功労賞、功績賞、国際活動奨励賞と3賞あり、有識者に選考していただいている。今までに述べ320名余を表彰しており、権威のある賞である。

また、最近「実践セミナー」を開催し、高い評価を受けていることも嬉しいことである。少し前までは、各企業が育てていた「国際会議で活躍・発信できる人材」も昨今の経済情勢ではままたまらないのが

現状。そこで、ITUの議長や副議長を勤められた方に(あるいは勤めている方に)一肌脱いでいただいて、英語による“模擬国際会議”や“二者間によるビジネス交渉”を実際に体験・実践していただく参加型セミナーである。先日は、先生と生徒が直接ぶつかり合うようなビジネス交渉や、通常の国際会議で行われるようなロビーイング活動も含めた模擬国際会議をした。参加者から“来年も…”の声が高い。

== こう書くとどんどん「衛星通信」から離れていくようで、いつ軌道修正しようか悩んでしまう。困った…

いつも思うことであるが、受賞者を選考するのも、セミナーの講師を依頼するのも、何をやるにしても、人と人のコミュニケーションで動いていることが沢山ある。というより殆どである。どんな仕事でも信頼関係は不可欠であり、スムーズに物事を進める第一歩である。私自身は何も出来ないのだが、お陰様でいろいろな方に可愛がっていただき、友情出演していただいていることも少なくない。

私は、地上でコミュニケーションをとりつつ仕事をしている訳であるが、衛星を使ってコミュニケーションをとっている方にとっては、スケールの小さい話かもしれない。でも、基本は同じではないだろうか。人と人、仕事と仕事、国と国、星と星・・・どれをとってもコミュニケーションの一部の車輪に過ぎない。

私は、衛星通信には直接関わって日々の仕事をしている訳ではないので、せめて一般市民としての街の声を書いてみようかと思う。

==それで勘弁してください。

衛星を使って、家庭のセキュリティや家事が監視できるようになるといい、子供の安全が見守れるといい、遠隔介護の手助けができるようになるといい、それも今の携帯電話サービスのように、安価でいろいろなプログラムが選べるといい。また、地球から衛星を使うことばかりではなく、視点を変えて衛星が地球に役立つ自発的な行動をとってくれるといいのではないだろうか。例えば衛星で太陽熱を集め地上に送るソーラーシステムや、宇宙からオゾン層を破壊するようなシステム、宇宙の冷気を北極や南極に局地集中的に送り込むシステム等、データ収集するだけではなくアクションを起こす(それも地球からの指示があつてのことであるが)ことができると、地球温暖化解消に役立つのでは？人間が生きやすくなるのでは？と思うのだが。

以前「衛星を使って家の風呂を沸かすことは技術的には出来るけど、随分高い風呂になるな～」と聞いたことがある。技術的には出来るのではないかと思うが、(素人の甘さ?)衛星利用が“ドラえモンのポケット” “鉄腕アトム”的な発想でいてくださるといいな、と思うのである。型にはまらず、多角的な視野にたって新しい衛星を作りたい。最終的には人と人を守る、国と国を守る、宇宙と宇宙を守るコミュニケーション衛星であって欲しいと祈念している。

==こんな原稿でOKでしょうか？

組織にはその組織の業務に精通したいわば生き字引のような存在で、しかも組織が行う外部と関係する行事などにおける進行について潤滑剂的な存在の人がどうしても必要である。また、そういう人を抱える組織の運営は非常にスムーズにいくものである。ここに登場して頂いた石井篤子さんはそのような貴重な存在ではないかと思っている。今後のご活躍を期待したいと思います。ご執筆ありがとうございました。(T)